



[ものづくり・商い・もてなし]  
西陣織のまちに続く生業

歴 2-20 (R03)

正暦5年(994)、京の町に疫病が流行り、疫神を船岡山にお祀りした紫野御霊会が今宮祭の起源となりました。

応仁の乱後に廃絶していましたが、元禄年間、桂昌院によって復興された際、現在の船岡山の東方、近世の洛中街地の最北端である西陣に御旅所が移されました。今宮祭では、神幸祭の日に神様が渡られてから、還幸祭の日に還られるまでのおよそ10日間、神様が留まれる場所が御旅所です。

敷地内に並ぶ権殿社、能舞台、鏡の間(社務所)は天明の大火(1788)で焼失した後の寛政7年(1795)に、また、神輿奉安殿は昭和20年にそれぞれ再建されました。

能舞台は背景に松を、右手に竹を描いた羽目板を張り、舞台の左手に橋掛りが伸び、楽屋としての機能を持つ鏡の間へとつながっています。この能舞台では、昭和40年代まで今宮御旅能が奉納されていました。

神幸列に子供神輿や玉の輿が加わり、西陣地域を巡行、千本中立売で行われる神輿の舁ぎあげは迫力があります。きらびやかな剣鉾の巡行を愉しみに迎え、厳粛な湯立の神事には清めを願う人々の姿が、地域と祭のつながりを偲ばせます。



能舞台



今宮祭湯立祭



〒602-0084 京都市上京区大宮通今宮御旅所前西入若宮横町136

電話番号 075-491-0082

アクセス 市バス「堀川鞍馬口」徒歩4分